

(別紙様式 2)

普及指導員調査研究報告書

課題名：水稻定点調査を起点とした集落営農法人の経営強化

所属名：美祢農林水産事務所

担当者氏名：芦沢宏之・和田修・稲葉俊二・池田琴音

<活動事例の要旨>

水稻の高温耐性品種に特化した定点調査を起点に、モデル 2 法人の基幹作業への立会指導や水管理者・JA 指導員を対象とした綿密な研修会で、法人全筆の単収向上と近隣法人への効果波及を促した。モデル法人には収穫後、次作に向けた技術改善に加え効率的・計画的営農への転換等を提案し、技術・体制改善の両面から総合的に経営強化を図った。

1 普及活動の課題・目標

令和 6 年後半からの全国的な米価高騰、いわゆる“令和の米騒動”に端を発した米の供給不足の懸念から、水稻（主食用米等）の増産が強く求められている。しかし、従前からの担い手の高齢化による離農・農業者数の減少や、長期に渡る米価の低迷に加え、近年の夏季の高温に起因する、米の単収・品質の低下による生産意欲の減退等を背景に、作付面積の減少傾向には歯止めがかかっている。本県の水田農業の主たる担い手である、集落営農法人を核とした米の生産拡大の取組が重要となっている。

だが一方で、集落営農法人においても近年、構成員の高齢化などによる労力不足や、組織内の求心力低下によるほ場管理（水管理）の粗雑化などにより、基幹作物である水稻の単収が低迷し、経営が安定しないケースが増加している。

そこで、JA と連携し、高温耐性品種に特化した定点調査（広域指導に資する生育調査）を起点に、集落営農法人の経営強化に取り組むこととした。単収低迷に悩む（農）F・S の 2 法人をモデルとして指導拠点となる定点調査ほを設置し、法人構成員と JA 指導員を対象とする研修会の綿密な開催等で、栽培を適正化する。収穫後は栽培技術の改善に加え、管理責任の明確化や指揮命令システムの再構築など、効果的な営農体制への転換や、将来を見据えた経営計画策定の提案などを行い、総合的に経営強化を図る。

2 普及活動の内容

(1) 定点調査に基づく指導方法の刷新

- ・JA(宇部統括本部)と、近年の高温障害による収量・品質低下への対策を協議した。管内における高温耐性 3 品種（にじのきらめき・きぬむすめ・恋の予感）の速やかな普及を目的に、今後は定点調査を、同 3 品種に特化して行うことを申合せた。
- ・併せて、低収に悩む 2 法人をモデルに定点調査ほを設置し、従前の田植後 10 日毎の生育調査に終始した取組を、調査ほを含む法人全筆の改善を促す内容に改めた。

(2) 綿密な栽培指導

- ・モデル 2 法人の基幹作業時に立会指導を行った。特に田植は、オペレーター毎に設定が異なる傾向があり、適切な基準（苗の植付本数・植付深度・栽植密度等）で行うよう、一人ひとりのオペレーターに密着し理解を得ながら改善を促した。

- ・法人の水管理者に、田植前研修会を開催した。また田植後 10 日毎の定点調査時にはほ場前で、栽培の適正化に向け研修会を開催した。JA 各営農 C にも参加を呼びかけ、営農指導員の能力向上を通じて、近隣法人等への指導効果の波及を狙った。
- ・研修会の前日等に、対象 2 法人の全筆を巡回し全体を把握した(図 1)。問題ほ場を予め特定し、毎回の研修会で役員や水管理者に、改善作業を具体的に促した(図 2)

(3) 将来を見据えた営農体制の改善提案

- ・対象 2 法人の営農体制において、栽培担当理事からの的確な指示がなく耕作者間で作業方針が揃っていないことや、田植後のほ場状況(水管理・雑草発生等)が十分把握されず、対応が遅れがちなことが、単収低迷の根源的な問題と把握できた。
- ・このため収穫後に反省会を開催し、(農) F に若手 K 氏(後継者候補)を主体とする営農への転換を、(農) S には栽培監視役(専従者候補)の新設を提案した(図 3)。
- ・(農) F には更に、若手 K 氏を主力とする 10 年後の経営計画作成を提案し、了承された。設立から 10 年が経過した今も、将来像が描けていない同法人に対し、役員会で、後継者を明確に位置づけた計画づくりを促した。農地集積、機械装備や雇用労力の確保等について情報共有を図りつつ、将来計画の策定に取り組んだ。
- ・基幹作業を地権者に依存する(農) S にも専従者候補主体の体制への転換を促した。

3 普及活動の成果

水稻の高温耐性品種に特化した定点調査を、単収低迷に悩む集落営農法人を対象に行うよう変更し、生産指導をより具体的に、JA と連携して実施できるようになった。

今回の 2 法人に対する取組では、田植など基幹作業の適正化に加え、全筆の定期巡回による状況把握と水管理等の綿密な改善指導により、単収向上を図ることができた(グラフ)。さらに、上記活動を通じ、法人役員に加えて構成員(水管理者)の管理意識が向上し、水稻を中心に経営を改善していく雰囲気醸成できた。これら一連の取組には、多数の JA 営農指導員の参画も促し、周辺法人を含め、全域の指導強化につながった。

また 2 法人では例年、主に雑草多発や稲の生育不足で低収となっていたが、体制上の問題として①田植直後の状況把握が不十分、②営農に係る判断責任が曖昧、の 2 点を把握できた。そこで収穫後の反省会では、各法人の状況に即した効率的な営農体制への転換を提案し、理解を得た。更に、将来像が描けていない点についても問題提起を行い、後継者(専従者)の明確化を念頭に今後、体制再構築に取り組むこととなった。

今回の活動対象である 2 法人については今後、後継者を中心とする新たな営農体制下で、安定した営農・経営が行われるよう、JA とも連携し、側面支援を継続する。また次年度以降は、指導対象の法人をさらに拡大し、管内の米産地全体の強化を進める。

4 今後の普及活動に向けて

主食用米の不足がこれほど問題になったのは、平成の米騒動(平成 5 年)以来、30 数年ぶりである。

近年は米価の低迷が続き、生産意欲は失われ、作付面積は減少の一途となっていた。だが、ようやく「米をもっと作って欲しい」と言われる時代が来た。生産者の販売単価も(一時的かもしれないが)大幅に上昇し、水稻主体の経営が“儲かる”状態になっている。しかし、これまでの長期に渡る過酷な経営環境を背景に、現場の疲弊は深刻化しており、こうした状況でも「作付を大幅に増やす」といった声は聞かれない。

我々普及指導員が一丸となって、現場の最前線に立ち、高まる県産米需要に応じて産地の生産拡大を支援する具体的な活動を今後、継続的に展開できないものだろうか。

図1. ほ場全筆の状況把握と適正化

CR7 (農) F 水稲お場管理状況一覧

エリア	功長	番号	品種	地名地番	栽培面積 (㎡)	地権者	①移植直後		②移植の2日後		③移植の20日後		④雑草の後発生		⑤主要被害		作物 ○・● △/10a
							深水で止水	浅水で移行	状況	生育状況	刈込等	雑草等	刈込等	要素	刈込		
A	にし	①	平田442-2	2,260	5/23○	6/6○	6/10○	6/10△(枯)	雑草(併)	○							
		②	平田447	2,000	5/23△(補)	6/6○	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	×							
		③	平田451	900	5/23○	6/2○	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	×							
		④	平田453	2,220	5/23△(補)	6/2○	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	×							
		⑤	平田438-1	1,700	5/23△(補)	6/2○	6/10○	6/10○	雑草(併)	△							
		⑥	丸尾458-1	2,560	5/23△(補)	6/2○	6/10○	6/10△(枯)	雑草(併)	×							
		⑦	丸尾455-1	1,620	5/23×落水	6/2○	6/10○	6/10○	雑草(併)	×							
B	岸田則義	①	丸尾460-1	2,760	5/23○	6/6○	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	○							
		②	上川462-1	1,200	5/28×露出	6/6○	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	×							
		③	上川468-1	1,070	5/28○	6/6△	落水し浅水	6/10○	6/10○	雑草(併)	×						
		④	上川469-1	2,000	5/28○	6/6○	6/10○	6/10○	雑草(併)	×							
		⑤	上川469-1	2,000	5/28○	6/6×	落水し浅水	6/10○	6/10○	雑草(併)	×						
		⑥	上川469-1	2,000	5/28○	6/6×	落水し浅水	6/10○	6/10○	雑草(併)	×						
		⑦	上川469-1	1,470	5/28○	6/6×	落水し浅水	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	×						
		⑧	上川469-1	720	5/28○	6/6△	落水し浅水	6/10○	6/10○	雑草(併)	△						
		⑨	上川469-1	1,840	5/28○	6/6×	落水し浅水	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	△						
		⑩	上川469-1	1,740	5/28○	6/6×	落水し浅水	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	△						
		⑪	春日7631-1	400	5/28○	6/6○	6/10○	6/10○	雑草(併)	×							
		⑫	春日7630-1	2,100	5/28×落水	6/6○	6/10○	6/10○	雑草(併)	×							
		⑬	春日7632-1	1,060	5/28○	6/6△	落水し浅水	6/10○	6/10○	雑草(併)	△						
⑭	春日7631-1	520	5/28○	6/6○	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	×									
⑮	春日7638-1	1,310	5/28○	6/6○	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	△									
⑯	春日7638-1	1,330	5/29○	6/6○	6/10○	6/10△(併)	雑草(併)	×									
⑰	上川478-1	300	5/27○	6/6○	6/10○	6/10○	雑草(併)	×									
⑱	上川479	900	5/28△(補)	6/6○	6/10○	6/10○	雑草(併)	×									

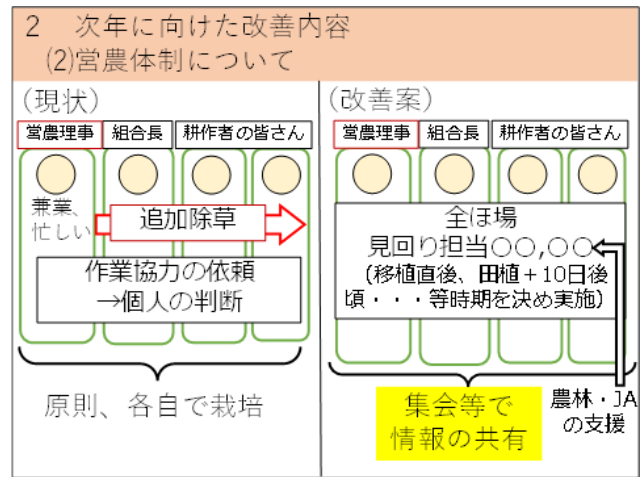
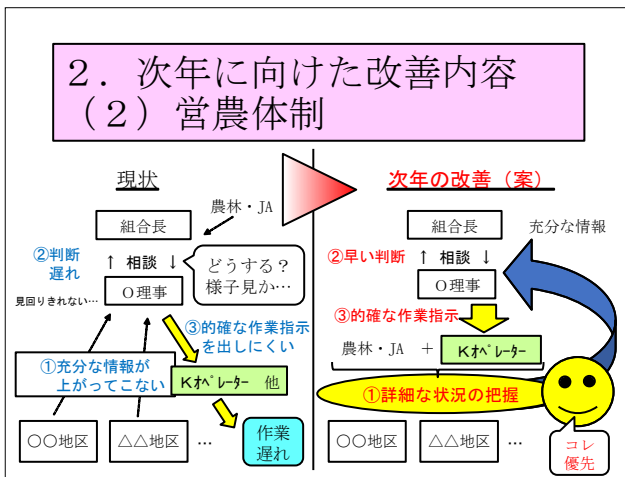
図2. 現地研修会資料 (一例)



図3. 体制改善案 (収穫後の反省会資料より 一部改変)

(農) F

(農) S



グラフ. 単収向上 (収穫後の反省会資料より)

(農) F

(農) S

